Southeast Asia Regional Network

News Letter

VOL.19
APRIL.2025

CONTENT

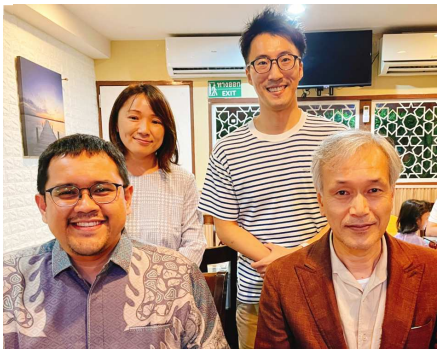
1．交流会レポート
2．タイの昨今 （第19回）
3．狙え！インスタ映え!? （第15回）
4．ともに感じる東南アジア（第15回）

事務局からごあいさつ

みなさん、こんにちは！
2025年も四半期が過ぎ、あっという間に新年度。気持ち新たに今年度もフレッシュな気持ちで頑張っていきたいものです。さて今回もメンバーのご協力のもと、支部ニュースレター第19号を無事発行することができました。今後も同窓生同士のネットワークを維持し、さらに開拓していけるよう活動を続けていきたいと思います。今後も「東南アジア愛」を皆さんに届けていきますので、応援の程よろしくお願いいたします。

1 交流会レポート

♦中村先生、アンジョン先生ご来タイ♦



24年9月11日タイ・バンコクにて、支部メンバー参加の元、ご出張のため来タイされた国際学部長の中村真先生及び助教アンジョン先生との懇談会を開催しました。中村先生は1年時の学部必須科目「異文化間コミュニケーション」担当でもあり誰もが知る存在。卒業以来の再会でしたが、18才の目に映った教壇に立つ先生が鮮明に思い出され、懐かしさでいっぱいの中、楽しいひと時を過ごすことができました。またのお越しをお待ちしています！

♦柴田さん壮行会♦

25年1月11日タイ・バンコクにて、タイ在住宇大同窓生参加の元、約3年半のタイ駐在を終え 1月よりインドへ転勤される柴田さんの送別会を開催しました。息子さんと共にインドに行かれるその姿に逞しさを強く感じました！是非とも安全第一に、楽しいインド生活となりますように心より応援しています！

♦現役宇大留学生との懇談会♦

24年9月21日タイ・バンコクにて、タイ在住宇大同窓生参加の元、農学部名誉教授・後藤先生及びタイのカセサート大学・タマサート大学に留学中の国際学部生との懇談会を開催しました。留学生の皆さんのタイでなんでも吸収するぞ！という前向きな姿勢とフレッシュさに我ら同窓生も感激！留学期間は1学期間、2学期間とそれぞれですが、限られた時間を思いっきり楽しんでほしいと心より願っています。

♦現役宇大留学生送別会♦

24年11月30日タイ・バンコクにて、タイ在住宇大同窓生参加の元、タイ留学中の国際学部生を囲み、12月に留学期限を終えられるメンバーの送別会を開催しました。留学生のタイでの充実した生活を垣間見ることができ同窓生一同とても嬉しく思いました。タイでの経験を活かして今後ますますのご活躍をお祈りしています！

2025年3月28日に発生したミャンマーでの大地震にて被災された方々にお見舞い申し上げます。被害に遭われた方々の一日も早い回復と被災地の早期復旧を心よりお祈りいたします。

国際学部 高橋愛さんより
お礼メッセージを頂きました！

皆様、本日は送別会という機会を設けて下さり、ありがとうございました。改めてタイという地で皆様と出会えたことをとても光栄に思います🇹🇭✨
前回も同様ですが、タイで生活する上での悩みや楽しさ、嬉しかったこと、不思議に思うことなどを話せるコミュニティがあるということが本当にありがたいことだと日々感じています！帰国後は、自分が半年間で感じたありのままのタイをたくさんの人に共有し、タイに興味を持つ人が増えていってくれればな思います。

今後またお会い出来る日を楽しみにしております😊本日はありがとうございました！

2 タイの昨今 ～第19回～ むすこ出家（見習い僧）する

3月から5月半ばの約2か月半、タイの学校は長い長い夏休みに入ります。この時期はタイ男子のサーマネーン（見習い僧）出家の時期でもあり、13歳の我が息子もついに出家する機会に恵まれました。
サーマネーンとは20歳未満で出家する男子を指す言葉で、成人の出家僧とは区別されます。それでも袈裟を纏いサーマネーンとしての10戒律を守り仏門に入ることは立派な「出家」であることには間違いないようです。夫の親類が飛行機に乗ってはるばるプーケットから儀式参加のために飛んできたくらいですから。

さてこの時期のサーマネーン募集は主にお寺が行うものですが、息子は毎年学校が主催している１週間の出家コースに参加しました（学校はクリスチャン系ですが…)。夫の子供時代は1カ月出家が普通のようでしたが、ご時世？でしょうか。。。
ということで、今回はこの現代サーマネーン出家についてレポートしたいと思います。

1日目：剃髪式

今回の出家者は小３～中３生総勢58名。学校の式典会場にて剃髪の儀式を行います。この儀式には宗教的要素がないため、クリスチャンの校長先生からの祝辞から始まり、その後蓮の葉っぱを持った子供達の元へ学校関係や親戚親御さんがそれぞれ子供の髪にハサミを入れる剃髪式が始まります。ハサミをいれる分だけ徳が積めるということからか、参加している大人たちは積極的に多くの子供たちにハサミを入れていきます。その後、両親への感謝の気持ちを伝えます。それは、出家＝親のため（子供の出家で親が高徳を積める）という考え方が根底にあるからです。儀式が終わると、髪と眉毛を剃り落とし、体を清め、白衣に着替えて近所を練り歩きます。

2日目：得度式

２日目に、仏門に入るための儀式「得度式」がお寺で行われます。白衣の子供たちが仏門に入るための約束事である10の決まり事（10戒）を唱え終えると正式にサーマネーンとみなされ、その後袈裟に着替えます。袈裟に着替えた時点で、息子はもう立派なサーマネーンですから、母親である私も息子に触れてもいけない、そして通常子供が先にする合掌の挨拶も、サーマネーンからはせず、在家（出家していない信者）である私たちからすることになります。在家は５戒律（下記１～５）を守るのに対してサーマネーンは10戒律を守るため、在家よりも上位に位置するという理由です。

＜10戒＞
1、生き物を殺さない
2、盗みをしない
3、不貞行為をしない
4、嘘をつかない
5、酒を飲まない
6、午後は食事をしない
7、柔らかな布団に寝ない
8、娯楽（音楽・芸能）に触れない
9、香水などをつけない
10、お金に執着しない

3～8日目：修行

6:00【托鉢】
鉢を持ち、在家から食べ物などの施しを受けるため住宅街を托鉢に回ります。
7:00 【朝食】
在家は食卓に手を添えサーマネーンへ食事を供え（徳を積む行為）、サーマネーンは食事の施しに感謝し食事を頂きます。
11:00 【昼食】朝食時と同様
19:00 【読経】（在家と共に）
21:00 就寝
※午前中の食事以外は「読経」の時間

8日目：還俗式

出家最終日、朝のお勤めを終え、昼食を頂いた後、還俗するための儀式が行われます。還俗する宣言をし、住職よりサーマネーン修了書を頂き、その後白衣に着替え完全に還俗します。

以上が、サーマネーン1週間出家レポートでした。私にとっては初めての経験で結構気疲れもしましたが、おそらく一生で一度のことだけにとてもいい経験となりました。一方当の息子は1週間袈裟で生活することがつらかった様子でしたが、息子も息子なりにいい経験になったと思っています。みなさんも機会があれば是非タイで出家体験してみてはいかがでしょうか？

サーマネーンこぼれ話

袈裟はこう着ている！

今どきのお供え事情

朝昼のサーマネーンの食事は基本お寺が用意したものですが、在家がお供えすることもできるので、お寺の食事内容を不憫に思う在家（親たち）が、KFC、ピザ、コーラ、アイスなどを毎日せっせとお供えする姿が。これこそ今どきのお供え物ですね。

出家中でも寺から抜けられる

具合が悪いという連絡がありサーマネーンの息子を病院へ。どうにか還俗式まで踏ん張らせましたが、数名インフルエンザ感染したサーマネーンがいたようで、出家途中で還俗したようでした。それでも出家完了とみなされます。

東南アジアへの想いを共に発信していく仲間（国際学部・院同窓生）を募集しています！

宇都宮大学国際学部・国際学研究科同窓会東南アジア支部は、同窓会本部承認のもと2017年8月に創設されました。東南アジアをこよなく愛する同窓生のネットワーク再構築を目指し、2017年9月よりニュースレターを年２回（４月・９月）発行しています。国際学部で東南アジア愛を培った同窓生のみなさまとともにつながり、ネットワークを広げいくべく活動を続けていきます。このニュースレターが 一人でも多くの同窓生に届き、さらに東南アジア愛を通じてネットワーク が広がっていくことを願っています。

東南アジア域内在住同窓生・元留学生・東南アジア域外在住で東南アジアに関わりたい、関わっていきたい同窓生興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ事務局兼ニュースレター編集係までご連絡ください。
数多くの同窓生からの声をお待ちしています！　　事務局：大畑（miyukiohata@gmail.com）

現メンバー（16名）▶大畑美優紀 95・マリー/藤田研▶田邊知成 96・小池研▶ ROMANOV (當眞) 里絵 96・佐々木(史)研▶栗林 (泊) 祥子 96・梅木研▶平田 勝博 97・友松研▶本間 みずほ 97・田巻研▶原理恵 98・藤田研▶谷澤 壮一郎 02・石濱研▶大宮 勇樹 06・マリー研 ▶知念（高田）知佳00・田巻研▶諸頭（岩山）晴奈05・阪本研▶小沼 洋子 97・藤田研▶藤井満春 00・友松研▶佐々木哲夫 99・藤田/中村(祐)研▶駒形麻朋実17・田巻研▶柴田（佐々木）友美子06・重田研（※数字は入学年度）

3

狙え インスタ映え!?

アジア取材雑記
第15回

50年目の“バリボ・ファイブ”

「東ティモール “盗まれた子どもたち”を探して」は
1年間こちらのリンクからご覧いただけます。
是非併せてご覧ください！
https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/shows/2022435/

皆様こんにちは。TVディレクターの谷澤です。

今年度は、東ティモールの関連取材が重なりまして、また同国からの1枚になります。

この焼け焦げたような建物を見たのは、西部のバリボという小さな町でした。インドネシアとの国境近くに位置するこの場所、実は東ティモールとオーストラリア両国では広く知られています。契機となったのは、今から50年前の1975年に起きた事件でした。

当時、宗主国ポルトガルからの独立を宣言した東ティモールに、隣国インドネシアが軍事侵攻・併合しました。この時、進軍するインドネシア軍を撮影し、世界に発信しようとバリボで待ち構えていたのが、豪州のTV局のために働いていた若手記者ら5人の男たちだったのです。彼らはインドネシア軍に捕らえられた後、この建物で銃殺されたとされています。

凶弾に倒れた“バリボ・ファイブ”は、独立の大義に貢献した人たちとして、東ティモールで“英雄”として記憶される一方、豪州では彼らの物語が2009年に映画化され、大きな話題を呼びました。（インドネシア政府は、彼らは銃撃戦に巻き込まれて“偶発的”に死亡した、との見解を示しており、この映画を上映禁止処分にしました…）

事件から50年が経ち、遺族の多くが鬼籍に入られています。しかし、豪州の当局が事前にインドネシア軍の動きを掴んでいた （つまり、記者らを見殺しにした!?） とも噂され、実は事件の真相は明らかになっていません。うやむやにしてはいけない史実が、この廃墟の裏に眠っているのです。###

（谷澤壮一郎/インドネシア在住）

4

第十五回 ともに感じる東南アジア

暑ささえ 楽しめたのは 若さゆえ

大宮 勇樹

タイ・シーサケット県にて
二〇〇七年

サークル活動で大学一年生の春休みに初めて訪れたタイ・シーサケット県の村の子供との笑顔の一枚です。タイを発展途上国とイメージして、渡航前に遺書まで書き残したが、大都会バンコクに驚きました。あれから18年。無邪気だった村の子供達はどんな大人になったのだろうか。
タイ生活10年を迎えた私はというと、あの頃は暑ささえも異国情緒と楽しめたのに、今となっては暑いと不機嫌になり、エアコンのきいた室内でサバーイを求める日々。サバーイ至上主義のタイ人に倣い、これも一種のローカライゼーション。